

調査データの収集プロセスの分析

データ科学研究系 調査解析グループ
新機軸創発センター社会調査情報研究グループ

助教 松本 渉

1 はじめに

電話調査（CATI）にせよ、面接調査にせよ、他記式の調査データの取得にあたっては、本来の目的である調査結果としてのデータのほかに二種類のデータを取得しうる。一つは、調査を試みた調査相手全ての最終的な結果（final disposition）であり、もう一つが、最終的な結果が出るまでの収集プロセスに関するデータである。この収集プロセスに関するデータが、正確に記録されておれば、その分析を通じて、調査データがどのような偏りを伴って取得されたのかをうかがい知ることができよう。

本報告では、国際比較調査プロジェクト「市民の政治参加と社会貢献の国際比較」の一環として実施した各国の調査の際に記録された収集プロセスに関するデータの分析結果を紹介し、そのような考察の一助としたいと考えている。

2 電話調査における収集プロセス

電話調査においては、調査相手への発信と同時にその行動が記録される場合もあるし、仮にそうでなくても調査員はコールセンター内で直接監督される状態にある。そのため発信に関する記録は比較的信頼できるものとなる。

「市民の政治参加と社会貢献の国際比較」の一環として、2008年度に実施した米国調査（電話調査）でも、発信と同時に記録がされているので、調査の経過が分単位まで分かる。表1は、その記録に基づいて曜日別・（対象者の）受信

表1 米国調査における対象者の側の時間帯

発信数	日	月	火	水	木	金	土	合計
9時～	0	0	0	0	0	0	245	245
10時～	0	0	0	0	0	1	3336	3337
11時～	0	0	0	0	0	1	1652	1653
12時～	1023	0	0	0	0	0	910	1933
13時～	1457	0	0	0	0	0	1209	2666
14時～	1004	3	0	0	0	0	1039	2046
15時～	1131	0	0	0	0	0	504	1635
16時～	1484	4	0	0	0	2	7	1497
17時～	2543	1234	1549	1308	1411	2497	0	10542
18時～	2022	1894	2510	2357	2210	4612	0	15605
19時～	1781	1738	2357	2592	2403	2313	0	13184
20時～	1202	1255	2034	509	3566	1149	0	9715
21時～	3	8	7	3	37	0	0	58
22時～	2	0	1	0	0	0	0	3
23時～	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	13652	6136	8458	6769	9627	10575	8902	64119

時間帯別に集計し直したものである（時差による受信時間帯の違いを考慮して作成）。対象者は、原則として平日の17時～21時の間、土曜日の9時～16時の間、日曜日の12時～21時の間に調査の電話を受けるようになっている。金曜日の18時台に最も集中的に受信するようになっていることも確認できよう。

一方、同年度に実施した日本調査（CATI）は、発信と同時に自動的に記録されるものではなかったが、コールセンター内で随時時間帯別の発信数が把握されるようになっていた。表 2 は、そのような記録に基づいた調査日時別の集計結果である。

日本調査の場合は、米国調査とは異なり、調査初日の金曜日（原則 14 時～21 時）に調査対象とされる番号に一通り発信し、その後土日（原則、9 時～13 時、17 時～21 時）に再発信するというデザインであった。そのため、発信数のピークも米国調査の場合と異なる。

日本調査・米国調査のどちらにおいても時間帯や曜日別に回収数を発信数で割ると曜日別・時間帯別の効率が概ね分かる。そのような計算を行うと、日本調査・米国調査ともに、効率の高い曜日や時間帯に対し、必ずしも発信数を多く割り当てるデザインになっていないことが分かった。

表 2 日本調査における調査日時別集計

	2/20	2/21	2/22	2/28	3/1	
時間帯	金	土	日	土	日	合計
9 時～	0	288	468	101	148	1005
10 時～	0	275	342	124	205	946
11 時～	0	431	450	230	179	1290
12 時～	0	424	636	198	201	1459
13 時～	0	0	0	0	117	117
14 時～	831	0	0	0	0	831
15 時～	887	0	0	0	0	887
16 時～	833	0	0	0	0	833
17 時～	550	669	356	312	214	2101
18 時～	660	726	339	389	431	2545
19 時～	612	622	555	145	172	2106
20 時～	389	466	108	91	150	1204
21 時～	5	4	0	0	0	9
合計	4767	3905	3254	1590	1817	15333

3 面接調査における収集プロセス

PAPI（Paper and Pencil Interviewing）の面接調査の場合も、収集プロセスを正確に記録されておれば、同様の分析は可能なはずである。しかし、現実には、調査員を面前で監督することができない面接調査においては、収集プロセスの記録は不正確である。市民の政治参加と社会貢献に関する国際比較の一環として 2009 年度に実施した韓国調査においては、調査票とは別に、調査対象者への全ての訪問状況を記録している（訪問記録票）。当然、それには、回収標本についての面接日時も含まれる。本来は、この訪問記録票における面接日時は、調査票における面接日時と完全一致しなければならないが、表 3 のように両者の数値は一致しない。面接調査の訪問記録は、そもそも収集プロセスの分析対象となりうるかどうかを問わなければならないのである。

表 3 韓国面接調査における調査完了日の相違

	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
回収調査票	4	8	29	37	39	42	76	106	158	129	81
訪問記録	4	8	29	37	39	53	75	104	152	127	85

9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	合計
68	40	58	47	45	21	0	3	2	16	12	12	1033
65	40	58	46	45	21	0	3	2	16	13	11	1033

注意：太字は、回収調査票と訪問記録の数字が一致しない場合。

謝辞

市民の政治参加と社会貢献に関する国際比較（市民社会調査）は、科学研究費補助金若手研究（A）（2007 年度～2010 年度、研究代表者 松本渉）「非営利セクターの展開に関する日米韓国際比較」（課題番号 19683004）の一環として遂行されたものである。